

記 録

岡山県自然保護センターの鳥類の現状 ～岡山県自然保護センター 鳥類目録への追補～

岡山県自然保護センター 織田 未希

Current status of birds in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center
～ Additions to birds in the Okayama Prefectural Nature Conservation Center ～

Miki ODA, *the Okayama Prefectural Nature Conservation Center*

ABSTRACT

Based on papers that were published from April 1996 to November 2020, 45 new species were added to the original list of birds that was investigated in Okayama Prefectural Nature Conservation Center (Inoue, 1996). Accordingly, 134 species were identified in total. Though the transition of species composition was affected by forest succession, species diversity has been preserved because of continuing maintenance of various fields.

キーワード：岡山県自然保護センター，環境変化，鳥相，追補，目録

はじめに

岡山県自然保護センター（以下、センターと称す）は岡山県中部の東寄り、吉備高原台地の南端にあたる和気郡和気町田賀に位置する（位置座標：北緯34°50'55"，東経134°3'20"，標高：約200～300m）。約100haに及ぶ敷地は森林と大小の二つのため池から成り、身近な動植物と触れ合うことのできる「虫の原っぱ」等の観察フィールドの他、国内屈指の規模を誇る人口湿原である「湿生植物園」も整備されている。地質は深層まで風化した花崗岩類であり、表層はいわゆる真砂土に覆われている。年間平均気温は13.3℃，年間降水量は1,328mm（岡山県自然保護センター，2011）であり、気候的には年間を通じて温暖，積雪は年に数回程度，降水量に関しては少雨傾向といえる。

森林環境は、1991年の開所当時はアカマツ林が

主であったが、現在はコナラ等の夏緑広葉樹林が広がってきている。これに伴い生物相にも変化が生じているものと推測されるが、「岡山県自然保護センター研究報告別巻第1号 生物相調査報告書（井上ほか，1996）」（以下、開所時調査と称す）以降、大規模な生物相調査は行われていない。一方鳥類においては、「センター設立当初と四半世紀後における春季の鳥類の比較（齊木，2018）」により1994年と2017年の春季鳥相が比較され、森林環境の変化に伴う顕著な変化が指摘されている。しかしながら、開所後29年間の鳥類情報は整理されておらず、長期的・継続的な鳥相の変遷についても明らかにされていない。

そこで本報告では、開所時調査以降の鳥類に関する文献等を整理することで、鳥相の変遷を明らかにすることを目的とした。

方 法

開所時調査以降の鳥類の確認情報を把握するため、1996年4月～2020年11月に発行された文献(表1参照)について資料調査を行った。また、職員の写真記録等についても、適宜データとして使用した。

確認種は年度ごとに整理し、一覧表を作成した。また、鳥相の変遷を把握するため、森林性、草地性、水辺性の生息環境別に種数を比較した。

なお本報告においては、亜種も1種としてカウントし、総種数に含めた。

表1. 調査した資料一覧と凡例

凡例	資料名	巻数
n	岡山県自然保護センター年報	4-27
t	岡山県自然保護センター友の会だより	6-107
i	「生きもの発見隊」観察記録	
s	自然保護センターだより	4(4)-29(4)
w	私の観察ノート	H25-R2
y	会報やませみ	7-145
o	野鳥おかやま	94-241

注) 凡例表記は表2に対応する。詳細は「調査資料の詳細」(p.58)に示す。

結 果

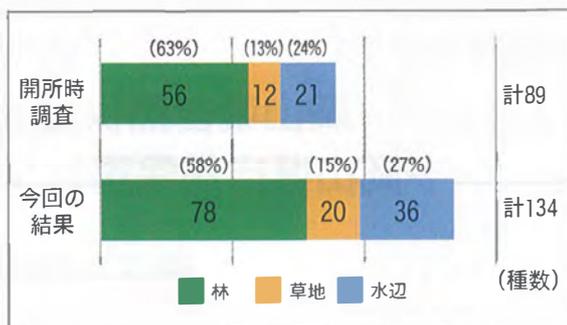
確認種一覧を表2に示す。なお、2006年に自然保護センター友の会による定例観察会、「生きもの発見隊」が始まり定期的なデータが集積されたが、それ以前については、データそのものが少なかった。

開所時調査における確認種89種から新たに45種が追加され、1992年から2020年までの確認種は計18目43科134種であった。

確認種の内訳

生息環境別にみると(図1参照)、開所時調査から2020年にかけて、森林性が22種、草地性が8種、水辺性が27種の追加であった。しかしながら、割合においては大きな変化は見られなかった。

図1. 生息環境別の確認種数



注) () 内は割合を示す。

表2-1. 年度ごとの確認種一覧 (1)

目名	科名	和名 ^{注1)}	注2) 渡り 区分	確認年度 / 西暦, 4月 ~ 注3)																											
				H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019
キジ	キジ	ヤマドリ	留																												
		キジ	留		●(±)																										
カモ	カモ	オンドリ	冬									n10	n11											w26	w27	w28	v130	v31			
		ヨシガモ*	冬					n4		n7			n12																		
		ヒドリガモ	冬																												
		マガモ	冬																												
		カルガモ	留							n5																					
		ハンビロガモ	冬																												
		オナガガモ*	冬					n4																							
		トモエガモ*	冬											n6																	
		コカモ	冬																												
		オオホシハジロ*	冬														v146														
		ホシハジロ*	冬										n8																		
		キンクロハジロ*	冬										n9			n12															
		スズガモ	冬																												
		ホオジロガモ*	冬																												v231
ミコアイサ*	冬																														
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留										v44																		
ハト	ハト	キンバト	留																												
		アオバト	留																												
カツオドリ	ウ	カワウ	留																												
ペリカン	サギ	ミゾゴイ	夏																												
		ゴイサギ	留																												
		ササゴイ	夏																												
		アマサギ	夏																												
		アオサギ	留																												
		タイサギ	留																												
		チュウダイサギ*	夏																												
		チュウサギ	夏																												
ツル	クイナ	コサギ	留																												
		ヒクイナ*	夏																												
		パン*	留																												
カッコウ	カッコウ	オオパン*	冬																												
		ホトギス	夏																												
ヨタカ	アマツハメ	ツツドリ	夏																												
		カッコウ	夏																												
アマツハメ	アマツハメ	アマツハメ	旅																												
チドリ	シギ	チドリ	旅																												
		ツルシギ*	旅																												
		クサシギ*	冬																												
		イソシギ	留																												
カモメ	ユリカモメ*	冬						n4																							

注1) 分類及び種の並びは、岡山県野生生物目録2019に準拠する。*：開所時調査以降追加された種。注2) 渡り区分は、岡山県中部以南を基準とした。
 注3) 確認があった場合、セルの色付けおよび主な引用資料を示す。資料記号は表1に対応し、数字は巻数を示す(詳細はp.56参照)。写：主な鳥類写真(p.59~)に対応する。
 ●：開所時調査での確認。()内は当時の観察頻度：+ よく見られる, ± 時々見られる, - まれに見られる。セルの色は生息環境：■ 森林, ■ 草地, ■ 水辺。

増加傾向にある種

開所時調査における観察頻度が「未確認」もしくは「まれに見られる」であったにもかかわらず、近年一定に見られる種を表3に示す。

表3. 近年増加傾向にある種

渡り区分 ^{注1)}	種名 ^{注2)}
留鳥	アオバト, カワウ, ダイサギ, バン*, ミサゴ, ソウシチョウ*
夏鳥	ヒクイナ*, ツツドリ, ハチクマ*, サシバ, サンショウクイ, サンコウチョウ, クロツグミ, コサメビタキ, キビタキ*, オオルリ
冬鳥	ヨシガモ*, ホシハジロ*, オオバン*, アトリ*, ハイタカ, ノスリ
旅鳥	コマドリ*

注1) 渡り区分は、岡山県中部以南を基準とした。

注2) * : 開所時調査において未確認の種。

減少傾向にある種

開所時調査での観察頻度と比較して、近年の確認が減少している種を表4に示す。なお、開所時調査以降一度も確認されていない種は計12種であった。

表4. 近年減少傾向にある種

渡り区分 ^{注1)}	種名 ^{注2)}
留鳥	<u>コサギ</u> , <u>キジ</u> , <u>スズメ</u> , <u>イソシギ</u> , ヤマセミ
夏鳥	<u>コシアカツバメ</u> , <u>カッコウ</u> , <u>アオバズク</u> , <u>ササゴイ</u> , <u>アマサギ</u> , <u>チュウサギ</u> , <u>オオヨシキリ</u>
冬鳥	<u>ハシビロガモ</u> , <u>コガモ</u> , <u>スズガモ</u> , <u>ビンズイ</u> , <u>クロジ</u>
旅鳥	<u>メボソムシクイ</u> , <u>アマツバメ</u>

注1) 渡り区分は、岡山県中部以南を基準とした。

注2) 下線 : 開所時調査以降一度も確認がない種。

レッドデータブック掲載種

これまでの確認種のうち、岡山県版レッドデータブック2020及び環境省レッドリスト2020により指定されている種を表5に示す。計28種であった。

表5. 確認種のレッドデータ指定状況

種名	岡山県 RDB2020	環境省 RL2020
ミゾゴイ	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類 絶滅危惧 I B 類
ブッポウソウ		
トモエガモ	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類
ツルシギ		
サシバ		
サンショウクイ		
ハチクマ	絶滅危惧 II 類	準絶滅危惧
ハイタカ		
オオタカ		
チュウサギ		
ヒクイナ		
ヨタカ		
ツミ	準絶滅危惧	情報不足 準絶滅危惧
フクロウ		
アオバズク		
アカショウビン		
ヤマセミ		
オシドリ		
ノジコ		
ササゴイ		
カッコウ		
イカルチドリ		
オオアカゲラ	準絶滅危惧	—
チョウゲンボウ		
サンコウチョウ		
コマドリ	—	準絶滅危惧
コルリ		
ミサゴ		

考 察

センターの鳥相

まず全体で見ると、センターでの確認種134種というのは、県下で見られる鳥類全394種（岡山県野生生物目録2019）の約3分の1にあたる。また生息環境別の確認種数についても割合は概ね維持されていた（図1参照）。一方で開所時調査以降確認されていない種が見られたものの、その大部分は当時まれに観察される種であり、顕著な減少傾向が見られた種は数種に留まった（表4参照）。以上より、開所29年を経てもセンターの確認種数は維持されていると言える。センターでは森林の生長・遷移が進みながらも「虫の原っぱ」や「湿生植物園」等のフィールドをはじめ開放的な環境の維持に努めている。このような多様な環境の維持が鳥類の多様性の維持にもつながったと考えられる。

生息環境との関係

まず森林性鳥類について述べる。確認頻度については、全国的にも拡大している（バードリサーチ全国鳥類繁殖分布調査結果（以下、全国調査と略す）、2020）アオバト、サンショウクイ、サンコウチョウだけでなく、表3に示すような森林性夏鳥の増加が見られた。これは、センター開所以降夏緑広葉樹林が茂ったことで、餌となる昆虫類の増加や天敵から身を隠せる等、森林性鳥類が好む環境に変化したためであると考えられる。しかし森林性鳥類のなかでも、針葉樹林を好むメボソムシクイや松林を好むビンズイについては確認頻度が減少した。これは、松枯れ病によりセンター内のアカマツ林が衰退したことに加え、2種の全国的な分布域の縮小（バードリサーチ全国調査、2020）も影響している可能性がある。

草地や農耕地の鳥類で顕著な減少傾向が見られた種としては、キジが挙げられる。開所当初は頻繁に鳴き声が聞かれていたが、以後確認はない。これは、開所記念に計26羽が放鳥されたものの（岡山県自然保護センター、1994）定着せず、近隣周辺へと移動したためと考えられる。

水辺の鳥類については、特にカモ類の増加が顕著であった。近年も継続的に確認されている種と

しては、カルガモ、マガモ、ホシハジロ、オシドリ、ヨシガモが挙げられた。そのうちカルガモ、マガモ、ホシハジロについては、全県的にも冬季個体数が1000~2000程度と多い一方で、オシドリ、ヨシガモについては100~200個体程度と少ない（日本野鳥の会岡山支部、2019）。カモ類の池への定着には周辺部の樹種が関係しており、定着を認めた池の樹種はアラカシが37.8%と最も多く、認められなかった池の樹種はアカマツが34.0%と最も多くなることが報告されている（武田、1990）。センターも例外でなく、アカマツ林から広葉樹林へと遷移したことで隠蔽効果が増大したほか、食物となる堅果類が得やすいなど、カモ類にとって好ましい環境になった可能性がある。また、カワウやダイサギ等の大型魚食性鳥類が増加し、コサギ等の小型魚食性鳥類が減少傾向にあった（表3及び表4参照）。これは全国的な分布の動向（バードリサーチ全国調査、2020）とも一致しており、同様の傾向と考えられる。また上記以外にも、センターの設立に伴い平成4年10月より敷地内が鳥獣保護区に指定されたことも、水辺の鳥類増加の要因となった可能性がある。

レッドデータブック掲載種

近年確認されたレッドデータブック掲載種は、渡りや狩場としての利用等、一時的に飛来している種が主であった。

定着している種もいくつか見られ、そのうち繁殖が明確に示唆された種としては、ヒクイナが挙げられる。県内では、開発等で生息地となる下層植生であるヨシ・ガマ環境が減少しており、繁殖期の個体数は減少している可能性がある（岡山県版レッドデータブック、2020）。しかしセンターでは2013年と2014年に「湿生植物園」で鳴き声が確認されて以降、2015年にタンチョウ棟付近、2016年には「昆虫の森」の水辺で成鳥が日撃され、2017年には「水生植物園」で初めて幼鳥が確認された。このように、センターは本種の貴重な繁殖地となっている。

一方で、開所当初は繁殖していたものの近年全く確認されていない種としては、センターのシンボル種でもあるヤマセミが挙げられる。全県的に生息しているが、営巣地となる急勾配な土崖の減

少に伴い、2017年には県内で20個体にまで激減した（岡山県版レッドデータブック，2020）。センターでも開所当初は田尻大池周辺で時折姿が見られ、田尻大池西岸には古い巣穴も残っていた。しかしながら、1999年を最後に確認されなくなってしまった（難波ほか，2019）。

特定外来生物

特定外来生物については、近年の傾向が見逃げない種として、ソウシチョウが挙げられる。本種は飼鳥として日本に輸入されて以降、一般家庭からの逸出や、業者による大量放鳥により近年分布域を広げている、いわゆる「籠脱け鳥」である。定着性、環境適応性、繁殖能力、及び拡散能力が高く、在来種に与える影響が大きいことから、特定外来生物に指定されている。県内でも、2008年には北部、2014年以降には岡山市などの南部でも観察されている（江田ほか，2018）。そしてセンターでも2016年以降鳴き声や姿が確認され、今では全域的に、年間を通じて確認されるほど増加している。本種がセンターの在来種に与える影響について把握するためにも、今後も継続的に鳥相を把握していく必要がある。

総じて、センターの鳥相は森林遷移の影響は受けつつも、鳥類の多様性は維持されている。これを保つためだけでなく、レッドデータブック掲載種に貴重な生息・繁殖地を提供するという観点からも、今後も多様な環境を整備・維持していくことが重要である。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、種の同定や確認種の県内での生息状況等について、日本野鳥の会岡山支部会長丸山健司氏にアドバイスをいただいた。記して謝意を表す。

引用文献

井上悦甫，1996. 岡山県自然保護センターの鳥類，岡山県自然保護センター研究報告別巻第1号生動物相調査報告書（平成5年度・6年度）：91-97.
岡山県自然保護センター
江田伸司・大塚利昭・小野行弘・川上和人・黒田

聖子・小見山節夫・坂本明弘・笹田富夫・笹野聡美・多田英行・富岡直人・野嶋宏一・宮崎良久・丸山健司・森本章男・守屋年史・山崎法子・山田泰照・渡辺裕幸，2018. 倉敷市立自然史博物館第27回特別展図録「岡山の野鳥たち ～むかし・いま・みらい～」：52. 倉敷市立自然史博物館.

岡山県自然保護センター，1994. 動植物の記録 ②移入動物. 岡山県自然保護センター年報（1）：30. 岡山県自然保護センター.

岡山県自然保護センター，2013. 岡山県自然保護センターの気象観測資料. 岡山県自然保護センター年報（20）：41. 岡山県自然保護センター
岡山県野生動植物調査検討会，2020. 岡山県版レッドデータブック2020動物編，57-104pp. 岡山県環境文化庁自然環境課.

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/656841_5702277_misc.pdf (2020年3月31日更新ファイル).

岡山県野生動植物調査検討会，2020. 岡山県野生生物目録2019 ver.1.1. 岡山県環境文化庁自然環境課.

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/657114_5705577_misc.pdf (2020年3月31日更新ファイル).

環境省，2019. 環境省レッドリスト2020（第4次レッドリスト第5回改訂版）.

<http://www.env.go.jp/press/107905.html> (2020年12月24日付けダウンロードファイル).

齊木孝，2018. センター設立当初と四半世紀後における春季の鳥種の比較. 岡山県自然保護センター友の会だより（96）：3-7. 岡山県自然保護センター友の会

齋藤武馬・西海 功・茂田良光・上田恵介，2012. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius) の分類の再検討：3つの独立種を含むメボソムシクイ上種について. 日本鳥学会誌61（1）：46-59. 日本鳥学会

難波靖司・阪田睦子・地職恵・藤田拓矢・ヤマセミプロジェクト，2019. 岡山県自然保護センターにおけるヤマセミ *Megaceryle lugubris* 復活のための環境調査. 岡山県自然保護センター研究報告（26）：17-45. 岡山県自然保護センター

日本野鳥の会岡山支部, 2019. 2018年度ガンカモ類調査結果, 野鳥おかやま (231): 17. 日本野鳥の会岡山支部.

バードリサーチ. 全国鳥類繁殖分布調査.

<https://birdatlas.jp/result.html> (2020年12月24日)

武田恵世, 1990. カモ科鳥類の越冬する池の環境条件, Strix (9): 89-115. 日本野鳥の会

調査資料の詳細

表2中に示された引用資料について、巻数、ページ、「掲載表題」、発行年の順に示す。
凡例の各アルファベットは、表1に対応する。

n. 岡山県自然保護センター年報（岡山県自然保護センター 発行）

センターの年間報告書。年度ごとに発行している。

4	36	動植物の記録	1996
5	34	動植物の記録	1997
6	34	動植物の記録	1998
7	32	動植物の記録	1999
8	33	動植物の記録	2000
9	33	動植物の記録	2001
10	46	動植物の記録	2002
11	38	動植物の記録	2003
12	37	動植物の記録	2004
24	51	動植物の記録	2017

t. 岡山県自然保護センター友の会だより（岡山県自然保護センター友の会 発行）

53	表紙	表紙写真	2007
60	10	ぼくと生きもの発見隊	2009
64	3-4	自然保護センターに謎のワシ出現	2010
92	8	生きもの発見隊 12年間の記録と想い	2017

i. 生きもの発見隊

52	12	観察記録—生きもの発見隊2006—	2007
58	5	「生きもの発見隊・2007」観察記録（主な確認種）	2008
60	12	「生きもの発見隊・2008」観察記録（主な確認種）	2009
64	12	「生きもの発見隊・2009」観察記録（主な確認種）	2010
68	12	「生きもの発見隊・2010」観察記録（主な確認種）	2011
72	12	「生きもの発見隊・2011」観察記録（主な確認種）	2012
76	12	「生きもの発見隊・2012」観察記録（主な確認種）	2013
80	12	「生きもの発見隊・2013」観察記録（主な確認種）	2014
84	16	「生きもの発見隊・2014」観察記録（主な確認種）	2015
88	16	「生きもの発見隊・2015」観察記録（主な確認種）	2016
92	12	「生きもの発見隊・2016」観察記録（主な確認種）	2017
96	16	「生きもの発見隊・2017」観察記録（主な確認種）	2018
100	8	「生きもの発見隊・2018」観察記録（主な確認種）	2019
104	8	「生きもの発見隊・2019」観察記録（主な確認種）	2020

s. 自然保護センターだより（岡山県自然保護センター 発行）

岡山県自然保護センターの機関誌。4, 7, 10, 1月の年4回発行している。

28 (1)	8	おしゃべりヤマセミコーナー	2019
25 (1)	8	おしゃべりヤマセミコーナー	2016

22 (2) 5 開所から20年を経て その3 2013

w. 私の観察ノート (岡山県自然保護センター 発行)

平成25年度から運用している来訪者との情報共有ツールである。職員及び来訪者がその日観察した生きものについて自由に記入してもらい、年度ごとに冊子化している。閲覧用資料。

y. 会報やませみ (落合野鳥の会 発行)

8	8	自然保護センター探鳥会	1994
29	4-7	鳥だより	1998
44	3	岡山県自然保護センター探鳥会 (2009.9.24)	2000
107	14	鳥だより	2011
110	12	鳥だより	2012
111	13	鳥だより	2012
112	13	鳥だより	2012
114	9	鳥だより	2013
115	17	鳥だより	2013
120	11	鳥だより	2014
122	11	鳥だより	2015
123	16	鳥だより	2015
124	13	鳥だより	2015
128	13	鳥だより	2016
130	13	鳥だより	2017
142	13	鳥だより	2020
102	7	鳥だより	2010
103	6	柿もみじのおひなさまと自然保護センター探鳥	2010

o. 野鳥おかやま (日本野鳥の会岡山支部 発行)

105	13	鳥信	1998
119	11	鳥信	2000
124	14-15	鳥信	2001
128	10-11	鳥信	2002
132	11	鳥信	2002
146	10	鳥信	2005
162	7	鳥信	2007
170	10	鳥信	2009
173	6	鳥信	2009
176	12	鳥信	2010
180	8	鳥信	2010
182	8	鳥信	2011
182	13	探鳥会で出会った鳥たち (10・11月)	2011
200	9	探鳥会で出会った鳥たち (2013年10月・11月)	2014
201	7-9	鳥信	2014
207	11	鳥信	2015

214	3	鳥信	2016
227	11	探鳥会で出会った鳥たち（2018年4・5月）	2018
231	8	鳥信	2019
233	11	探鳥会で出会った鳥たち（2019年4・5月）	2019

岡山県自然保護センター 主な鳥類写真

凡 例：種の並びは「岡山県野生生物目録2019」による。種名。撮影年月日。撮影者名（地職恵：C，藤田拓矢：F，後長哲美：G，石井百合子：I，難波靖司：N，織田未希：O，坪井稔：T）。の順に記した。



写真1. オシドリ, 奥♂手前♀.
(2018年11月2日, 撮影者:N).



写真2. ヨシガモ♂.
(2013年1月11日, 撮影者:N).



写真3. オナガガモ, 中央♂周辺♀.
(2020年11月13日, 撮影者:N).



写真4. トモエガモ♂.
(2015年12月23日, 撮影者:N).



写真5. コガモ♂.
(2011年12月26日, 撮影者:N).



写真6. ホシハジロ, 右♂左♀.
(2020年12月6日, 撮影者:N).



写真7. キンクロハジロ♂.
(2014年10月15日, 撮影者:N).



写真8. ミコアイサ♀.
(2018年2月21日, 撮影者:N).



写真9. アオバト.
(2014年4月13日, 撮影者:T).



写真10. カワウ.
(2020年7月13日, 撮影者:O).



写真11. ミゾゴイ.
(2020年4月24日, 撮影者:N).



写真12. ゴイサギ.
(2013年5月3日, 撮影者:N).



写真13. ダイサギ.
(2016年4月4日, 撮影者:N).



写真14. チュウダイサギ.
(2019年9月30日, 撮影者:N).



写真15. ヒクイナ.
(2017年7月31日, 撮影者:G).



写真16. バン.
(2019年1月30日, 撮影者:N).



写真17. オオバン.
(2018年2月2日, 撮影者:N).



写真18. ツツドリ.
(2014年9月18日, 撮影者:N).



写真19. イカルチドリ.
(2019年12月1日, 撮影者:N).



写真20. クサシギ.
(2011年11月20日, 撮影者:N).



写真21. ミサゴ.
(2011年9月29日, 撮影者:N).



写真22. ハチクマ.
(2017年6月19日, 撮影者:N).



写真23. ハイタカ.
(2019年1月16日, 撮影者:N).



写真24. オオタカ.
(2018年2月18日, 撮影者:N).



写真25. サシバ.
(2013年4月20日, 撮影者:N).



写真26. ノスリ.
(2017年3月15日, 撮影者:N).



写真27. フクロウ.
(2014年10月23日, 撮影者:N).



写真28. ブッポウソウ.
(2020年6月15日, 撮影者:N).



写真29. サンショウクイ.
(2017年9月1日, 撮影者:N).



写真30. サンコウチョウ♀.
(2013年7月5日, 撮影者:N).



写真31. コシアカツバメ.
(2017年8月2日, 撮影者:N).



写真32. メボソムシクイ.
(2014年10月19日, 撮影者:N).



写真33. キレンジャク.
(2020年2月28日, 撮影者:F).



写真34. ヒレンジャク.
(2018年3月11日, 撮影者:N).



写真35. クロツグミ.
(2013年5月13日, 撮影者:N).



写真36. マミチャジナイ.
(2012年4月15日, 撮影者:N).



写真37. コマドリ♂.
(2020年4月17日, 撮影者:N).



写真38. ノビタキ.
(2016年10月16日, 撮影者:N).



写真39. イソヒヨドリ♀.
(2019年7月17日, 撮影者:N).



写真40. エゾビタキ.
(2012年10月2日, 撮影者:N).



写真41. サメビタキ.
(2012年10月5日, 撮影者:N).



写真42. コサメビタキ.
(2013年9月27日, 撮影者:N).



写真43. キビタキ♂.
(2016年5月4日, 撮影者:N).



写真44. ムギマキ♂.
(2012年4月8日, 撮影者:N).



写真45. ニシオジロビタキ♂.
(2014年4月20日, 撮影者:N).



写真46. オオルリ♂.
(2020年6月8日, 撮影者:N).



写真47. カヤクグリ.
(2016年1月22日, 撮影者:I).



写真48. スズメ.
(2013年6月29日, 撮影者:N).



写真49. ビンズイ.
(2013年11月2日, 撮影者:N).



写真50. アトリ.
(2020年11月6日, 撮影者:N).



写真51. シメ.
(2020年4月2日, 撮影者:N).



写真52. ノジコ.
(2015年10月23日, 撮影者:N).



写真53. クロジ.
(2012年11月12日, 撮影者:C).



写真54. ソウシチョウ.
(2019年4月25日, 撮影者:N).